

Dietary inflammatory potential and risk of mortality in metabolically healthy and unhealthy phenotypes among overweight and obese U.S. adults.

過体重および肥満のアメリカ人成人における食事性炎症作用と代謝的に健康な者と不健康な者の死亡率との関連

Yong-Moon Mark Park, MD, PhD, Moon Kyung Choi, MD, Seong-Su Lee, MD, PhD, Nitin Shivappa, PhD, Kyungdo Han, PhD, Susan E. Steck, PhD, James R. Hébert, ScD, Anwar T. Merchant, ScD, DMD, and Dale P. Sandler, PhD

***Clin Nutr.* 2019 Apr;38(2):682-688.**

背景：本研究はアメリカ人集団を代表とする過体重と肥満の対象者における食事性炎症指数（DII®: dietary inflammatory index）と代謝表現型と死亡リスクとの関連について調査した。

方法：国民健康栄養調査（National Health and Nutrition Examination Survey III, 1988–1994）に参加した過体重および肥満（BMI \geq 25kg/m²）で、20-29歳成人の3733人のデータを分析した。対象者の死亡を2011年12月31日まで追跡した。DIIは24時間思い出し法を用いたベースライン時の食事摂取量から計算した。高血糖、インスリン抵抗性が高い、高血圧、高中性脂肪、高C反応性タンパク質（CRP）または低HDL-Cからなる代謝異常のうち2つ以上該当する場合、代謝不健康状態とみなした。

結果：代謝不健康過体重/肥満（MUO）型において、DIIと全死因死亡のリスク増加に関連が見られた（HR Tertile 3 vs Tertile 1 1.44; 95% CI 1.11–1.86 Ptrend=0.008; HR 1SD increase 1.08; 95% CI 0.99–1.18）。さらに交絡因子で調整後、循環器疾患死亡リスクとも強い関連が見られた（HR T3 vs T1 3.29; 95% CI 2.01–5.37 Ptrend<0.001; HR 1SD increase 1.40; 95% CI 1.18–1.66）。また肥満の者（BMI \geq 30kg/m²）に限定して分析すると、特に循環器疾患死亡リスクにおいて関連が見られた（HR T3 vs T1 5.55; 95% CI 2.11–14.57 Ptrend=0.006; HR 1SD increase 1.74; 95% CI 1.21–2.50）。代謝健康過体重/肥満（MHO）型において、DIIと死亡リスクとの関連は見られなかった。またMHO型とMUO型どちらもDIIとがんの死亡リスクに関連は見られなかった。

結論：MUO型のみ、炎症作用の高い食事は全死因死亡リスクと循環器疾患死亡リスクを増加させる可能性がある。

この論文を読んで

肥満者でも代謝異常のある者では、炎症作用を有する食事をとると死亡率のリスクがより高まることが明らかとなった。代謝異常の判定基準の該当項目数が多い者と少ない者とで死亡リスクに差が出たのかが気になった。また肥満でない者と肥満者との比較もできればよいと思う。今後は食事性炎症作用と複数の生活習慣要因を組み合わせた方法で、疾患の罹患リスクや死亡率との関連について明らかにできればよいと考える。